５．六角川流域全体としての取り組み

５．１　関係機関、地域住民との連携・協働

六角川流域は、二度にわたる激特事業の実施により、近年河川整備の着実な進捗を見せている一方、地球温暖化による洪水外力の増大や高齢化の進行等、洪水に対する災害リスクは依然として高く、一旦はん濫が生じた場合は甚大な被害を受けることが想定されます。

また、排水ポンプ場の整備により、それまで頻発していた内水被害が軽減されることで土地利用の高度化が進むことが考えられますが、整備水準以上の洪水が発生した場合は、新たな内水被害が生じることが想定されます。

このため、洪水や内水の被害を軽減することを目的として、「防災まちづくり」の支援等これまで取り組んでいるソフト対策の更なる充実を図るとともに、家屋や道路の嵩上げ、災害危険区域の指定など土地利用の工夫や、ため池・クリークの有効活用など、流域の特性に合わせた総合的な内水対策の実施に向け、県や市町など関係機関と連携した取り組みを実施します。

（平成23年3月末時点）

図 5.1.1　防災まちづくりの支援状況

写真 5.1.1
住民によるマイ防災マップの作成

写真 5.1.2
マイ防災マップを活用した避難訓練

５．２　地域の将来を担う人材の育成・発掘

今後、川づくりを進める上で、川遊びや水生生物調査、環境学習など水辺の自然体験活動等の機会を提供するとともに、出前講座を通じて環境学習や防災教育を行い、将来の地域を担う子供達の知識向上のための支援を行います。

また、これらの自然体験や防災教育などの指導者育成・発掘を支援するとともに、これまで度重なる水害や渇水を経験した地域住民が保有している知識や知恵等を伝承していく仕組みづくりを行います。

なお、今後の河川の調査、計画、工事、管理のそれぞれの面における河川技術の知識と経験を向上させるため、長期的な視点で河川に精通した技術者の育成に取り組みます。

写真 5.2.1　住民団体と連携した水防災教育

写真 5.2.2　子供を対象とした環境学習

５．３　河川情報の発信と共有

六角川特有の自然環境と、個性を生かした河川整備を進めるため、ホームページ・広報誌やテレビ、新聞などメディアを利用して広く情報提供し、住民との合意形成に向けた情報の共有化、意見交換の場づくりに取り組むなど、関係機関や地域住民とのコミュニケーションを推進します。

５．４　流域全体を視野に入れた取り組みにあたって

六角川を良好な状態で維持して行くためには、河川のみならず、源流から河口までの流域全体及び有明海を視野に入れた総合的なマネジメントが必要です。

このため、河川における水量、水質、生物等の調査はもとより、広く流域の状態の把握に努めます。

また、河川の情報を流域の関係者に発信し、情報の共有、相互の連携を深めることで、洪水流出量の増加の抑制、浸水危険箇所での市街化の抑制、水質汚濁負荷の削減、ゴミ発生量の削減等につなげます。